地域おこし協力隊通信

地域おこし協力隊は、都市部からの人材を受け入れ、地域協力活動を行いながら、定住・定着を図ることで、地域の活性化を目指す制度です。
今回の特集では、隊員たちの活動への想いをお届けします。

(元)地域おこし協力隊(百島地区担当)
石山辰也 隊員
所属:百島支所(☎0848-73-2701)

退任のごあいさつ
地域おこし協力隊の活動を終えて

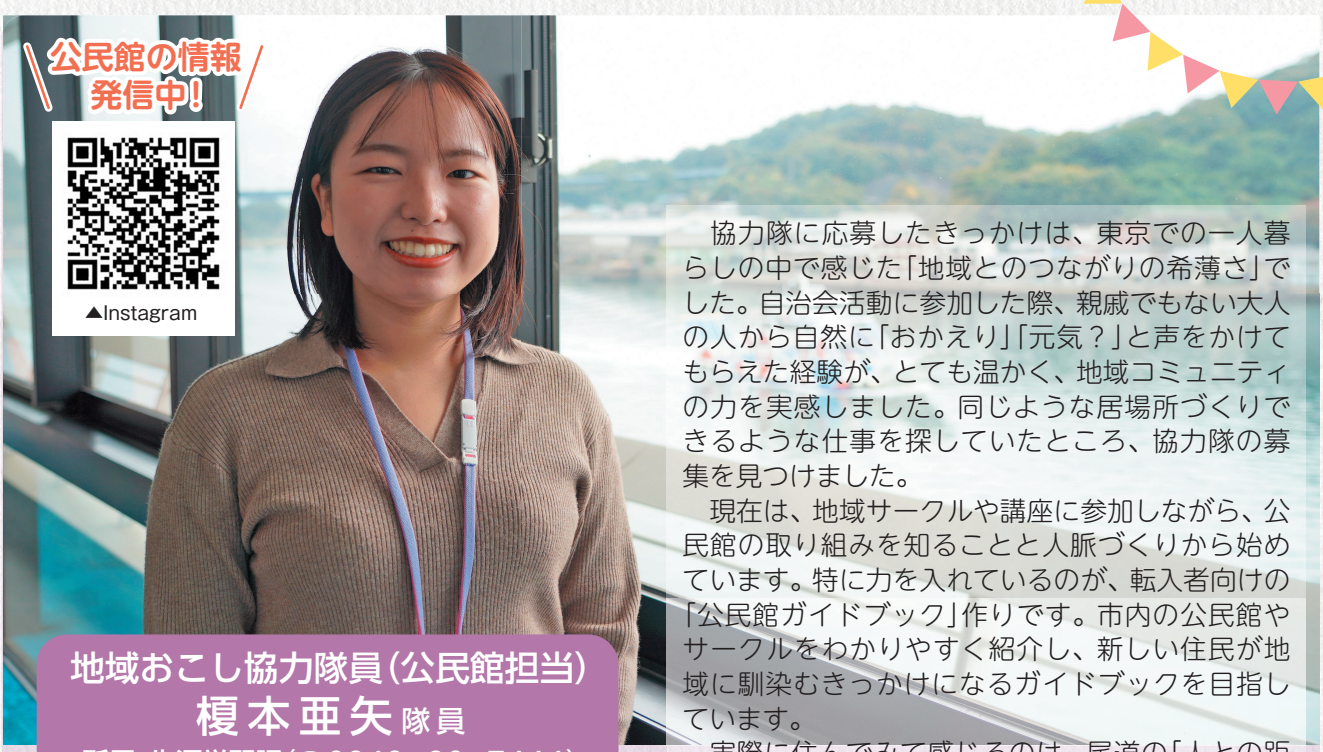
地域おこし協力隊として、令和４年10月から令和７年９月まで百島で活動してきました。着任してからは、島の魅力を知ってもらうための情報発信や「百島マップ」の制作、登山道の整備など、幅広い取り組みに挑戦してきました。

夏にはSUPのインストラクターとして海のアクティビティを広め、「百島ビーチフェスティバル」やビーチクリーンを実施しました。冬は深刻だったイノシシ被害に向き合い、狩猟免許の取得、イノシシの解体場を作るなど、島の獣害対策にも取り組みました。また、島内の物件リサーチや移住相談などを通して、百島に関わる人を増やすための環境づくりにも力を入れました。

都会から百島に移り住み、私のライフスタイルは大きく変化しました。また、協力隊活動のために様々な知識を身に付け、行動するなど自分自身に大きな変化がありました。たとえば、活動の主軸となるマリンアクティビティ振興の活動のために、海のルールを知り、海で安全に活動できるよう複数の資格を取得しました。「必要だと思ったことを自分で考え、動き、形にする」ことで様々な活動に取り組んできました。島の皆さんにも本当に支えられ、特に着任当時の町内会長には、人や地域とのつながりをつくるうえで大きな力をいただきました。

任期中には新たな移住者も増え、一緒にDIYをしたり助け合える移住仲間もできました。これからも百島に住み続け、島に関わる人と協力しながら、ここでの暮らしをより良くしていきたいと考えています。

３年間、ありがとうございました！ 自然豊かな百島にぜひ遊びに来てください！



公民館の情報発信中！

▲Instagram

地域おこし協力隊員（公民館担当）
榎本亜矢 隊員

所属：生涯学習課（☎0848－20－7444）

福山市出身で、小学生の時に東京へ引っ越しました。引っ越し後も毎年のように祖母の住む福山へ里帰りし、社会人になってからもたびたび訪れるうちに、「いつかこの地域で暮らしたい」という思いが強くなりました。今年７月から尾道の地域おこし協力隊として、公民館の活動を支援・強化するために活動しています。

協力隊に応募したきっかけは、東京での一人暮らしの中で感じた「地域とのつながりの希薄さ」でした。自治会活動に参加した際、親戚でもない大人の人から自然に「おかえり」「元気？」と声をかけてもらえた経験が、とても温かく、地域コミュニティの力を実感しました。同じような居場所づくりできるような仕事を探していたところ、協力隊の募集を見つけました。

現在は、地域サークルや講座に参加しながら、公民館の取り組みを知ることと人脈づくりから始めています。特に力を入れているのが、転入者向けの「公民館ガイドブック」作りです。市内の公民館やサークルをわかりやすく紹介し、新しい住民が地域に馴染むきっかけになるガイドブックを目指しています。

実際に住んでみて感じるのは、尾道の「人との距離の近さ」です。お店でも地域でも、初対面でも気さくに声をかけてもらえる温かさがあり、心地よさがあります。

これからは、公民館を「ちょっと行ってみたい」と思ってもらえる場にするためのきっかけづくりを進めたいです。地域の人が自然に集まり、ゆるやかにつながれる場所づくりを通じて、このまちに少しでも貢献できればと思っています。

土堂公民館　松本館長に榎本隊員について聞きました

松本館長は榎本隊員を見た第一印象を「若くて明るく、礼儀正しい」と語り、公民館の利用者層拡大のためにも「来てくれたことがとても嬉しかった」と話してくれました。

■協力隊に期待すること

松本館長は、「協力隊に来てもらった理由のひとつが若者の取り込み。SNSを使った発信で若い世代にも公民館に親しんでもらえたら」と期待を寄せています。

「高齢の人だけでなく、後に続く若い世代の人にも利用してほしい。公民館の利用を通じて地域に根づく人が増えていけば良いなと思っています」とも語りました。

■地域とのつながり

榎本隊員は、公民館で作業を行うなかで、地域の方と自然に会話が生まれ、つながりが広がっていると実感しているそうです。

松本館長も「榎本さんは利用者さんにも歓迎されますし、いろいろ教えてもらうことも多い。来てくれる日は嬉しい」と笑顔で話します。

■公民館の活用と新たな取り組み

松本館長は「公民館は生涯学習の場。５人集まれば講座やサークルを立ち上げられるので、気軽に声をかけてほしい」と呼びかけます。

また、図書の貸し出しも行っており、住民が本を読み合い、語り合う「読書会」を立ち上げたいと思っているそうです。榎本隊員も「読書会のような取り組みをぜひ実現したい」と、二人でアイデアをふくらませていました。立ち上げのため参加者募集中です！ あなたも読書会の仲間になりませんか？ まずは土堂公民館へお気軽にご連絡ください。

問土堂公民館（☎0848－23－9662）

地域おこし協力隊員（水産担当）
坂本みゆき 隊員
所属：農林水産課（☎0848-38-9478）

水産業の情報発信中！

▲Instagram

私は現在、漁業のPRやアサリの保全活動、子ども向けの食育イベント、海の環境整備など、さまざまな取り組みに力を入れて活動しています。どれが一番というよりも、すべてが大切だと感じており、全方向に力を入れて取り組んでいます。

今年度初めて開催した離乳食作りのイベントは、参加した皆さんに喜んでもらえました。栄養士さんや託児スタッフの確保に課題はありますが、今後も定期的に開催したいと思っています。

SNSのお魚プレゼント企画では、１回目は130人、２回目は約200人もの応募いただき驚きました。喜んでいただけて嬉しかったです。市外での地魚PR活動では、市外における尾道地魚の認知度が市内に比べてかなり低いことも実感しました。短期間での変化は難しいと思いますが、外向けの発信にも一歩一歩地道に取り組んでいきたいと思います。

また、漁獲量が激減してしまったアサリ再生のための活動にも力をいれており、漁協組合員向けに活動を知らせるアサリ新聞を発行しています。私は特に貝類が大好きで、アサリもたくさん食べたいので、尾道産のアサリが市場に出るくらい獲れるようになると嬉しいです。

今後やってみたいのは、漁具を展示している資料館や昔の市場の写真などを活用した「まち歩きイベント」です。海での体験だけでなく、地域の歴史に触れながら歩き、最後に漁船や水槽の魚を見てもらうような、新しい形のイベントができたらと考えています。

活動を続ける中で、「自分がやりたいことだけではなく、需要があることをやる大切さ」を強く感じています。水産関係者や消費者の需要に向き合い、活動を続けていきたいと思います。

需要リサーチ！ お魚さばき方教室の開催に興味はありますか？アンケートにご協力ください。

アンケートフォーム▶

クニヒロ（株）川﨑会長に坂本隊員について聞きました

アサリ再生プロジェクトに取り組む川﨑さんは、坂本隊員について「明朗快活！現場の雰囲気を和らげてくれる存在です」と語ります。はじめて会った時から、何でもできそうで頼もしい人だと感じたそうです。

■坂本隊員の影響

漁協は平均年齢が70歳を超え、高齢化と人手不足が課題です。２年前からアサリの再生に向けたプロジェクトが本格化し、ボランティアとともに作業を続けています。地道で体力のいる作業が多いのですが、坂本隊員が現場に入ることで雰囲気が明るくなり、全体のモチベーションも高まっているといいます。

■山波のアサリ再生活動とアサリ新聞

かつて尾道では「山波のアサリ」が有名で、多くの人が山盛りのアサリを楽しんでいました。旨味の濃いアサリを、もう一度尾道市のみんなに味わってほしいと願い、川﨑さんをはじめ漁協関係者が活動を続けています。川﨑さんはアサリ再生を通じて、海や干潟、人とがつながる未来を思い描いています。３年後30トン、５年後50トン、10年後100トンという目標も掲げ、潮干狩りができる環境の復活を目指して活動中です。

その実現には、協力してくれる人のつながり大切です。坂本隊員が制作する活動報告のアサリ新聞は、つながりづくりと活動者のモチベーションアップの役割を担っています。今は漁協組合員向けにしか発行されていないが、市民全体に取り組みを知ってもらい、活動の輪が広がってほしいと、川﨑さんは坂本隊員の情報発信に大きな期待を寄せています。

川﨑さん自身、「アサリと話ができるくらい仲良くなりたい」と話します。「気持ちがわからないと生き物を育てることはできない。しんどいのがわかるようになったら、アサリの生存率を高く保って育てられるはず。」とアサリ再生への想いを語ってくれました。